

# 2018年本屋大賞

## 『かがみの孤城』 辻村深月著

孤城：周囲を敵にかこまれ、  
援軍もなく孤立している城。

日本国語大辞典 第8巻(小学館 初版より)

中学校入学早々、学校にいけなくなってしまった主人公のころ。自分の部屋に閉じこもっていたある日、鏡が光り出し、引きずり込まれるように鏡の中へ。その先にあるのは不思議な城。そして6人の中学生たちがいた。彼らとところを引きずり込んだのは、「オオカミさま」と名乗る少女だった。

‘オオカミさま’から命ぜられたのは「願いの鍵」を探すこと。6人の中学生たちとともに、孤城で鍵を探す冒険が始まる…。

### 辻村深月(つじむら みづき)

1980年、山梨県生まれ。2004年、『冷たい校舎の時は止まる』でメフィスト賞を受賞し、デビュー。著書に『凍りのくじら』『ぼくのメジャースプーン』『ゼロ、ハチ、ゼロ、ナナ。』『島はぼくらと』『盲目的な恋と友情』『朝が来る』など多数。『ツナグ』で吉川英治文学新人賞、『鍵のない夢を見る』で直木賞を受賞。

(「ダ・ヴィンチ」2017年7月号より)

### 辻村さんを知るエピソード

○ミステリー作家 綾辻行人の作品が好きで、ペンネームに「辻」の字をつけた。

○「ドラえもん好き」で有名。初期の作品『凍りのくじら』では、ドラえもんの道具がたくさん登場する。

○直木賞贈呈式が行われた東京會館に和服で登場。かつて自身の結婚式も東京會館で挙げ、その時も着付けをお願いしていて、『直木賞受賞のときに戻ってきます』と話し、有言実行したという、深イ逸話がある。

## 本屋大賞とは

### 出版業界を盛り上げろ！全国の書店員さんが投票で選ぶレコメンド本

出版不況の中、書店店頭での活気を取り戻したいという思いから、現役書店員さんたちが企画・実行した新しいスタイルの「賞」。過去1年の間に出版された日本の小説の中から、全国の書店員さんが実際に読んで「面白かった」「お客様にもおすすめしたい」「店頭にならべたい」と思った本に投票して、選ばれた本が大賞となります。

大賞受賞作は売り上げを伸ばし、多くは映像化されるなど、話題を呼ぶイベントとなっています。

## 過去の大賞受賞作品

2004年 『博士の愛した数式』小川洋子著

2005年 『夜のピクニック』恩田陸著

2006年 『東京タワー：オカンとボクと、

時々、オトン』リリー・フランキー著

2007年 『一瞬の風になれ』佐藤多佳子著

2008年 『ゴールデンランバナー』伊坂幸太郎著

2009年 『告白』湊かなえ著

2010年 『天地明察』沖方丁著

2011年 『謎解きはディナーのあとで』東川篤哉著

ここで紹介した作品はすべて図書館にあります。

分類番号(本の内容を表す、背表紙につけられた数字。)はすべて913(日本文学・小説)で、作家の50音順に並んでいます。

\* 書架DとE、F(文庫本)にあります。

2012年 『舟を編む』三浦しん著

2013年 『海賊とよばれた男』百田尚樹著

2014年 『村上海賊の娘』和田竜著

2015年 『鹿の王』上橋菜穂子著

2016年 『羊と鋼の森』宮下奈都著

2017年 『蜜蜂と遠雷』恩田陸著

